

## 第7章

### 「生理の貧困」を抱える人物像を捉える

データサイエンス学部 間宮壮太

#### 1. 問題の所在

コロナ禍以降、女性の「生理の貧困」問題が社会問題へと入りつつある。厚生労働省が令和4年2月に行った『「生理の貧困」が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査』では、回答者の8.1%が「新型コロナウイルス発生後（2020年2月頃以降）、生理用品の購入・入手に苦労したこと」に対して「よくある」もしくは「ときどきある」と回答している。これらの回答をしている割合は300万円未満の世代、30歳未満の世代に多く見られ、日本における貧困や格差問題と密接に関わっていることが伺える。

しかし、その一方でこうした「生理の貧困」を救済する為に行われている生理用品の無償配布制度については多くの市町村区で行われているにも関わらず、それらが広く普及しているとは言えない。同調査にて居住地域で行われている生理用品の無償提供の認知についても調査されたが、制度があるかどうか「分からない」と回答した割合は49.6%と、約半分が制度の存在を知らない結果となった。

さらに「生理用品の購入・入手に苦労したことがある」上で「居住地域で行われている生理用品の無償提供制度を知っている人」のうち、利用した事がある人はわずか17.8%と低い水準に留まっている。

制度の認知度、そして利用者共に少ない理由の1つに、これらの情報を正しく「生理の貧困」に喘ぐ人々に発信できていないことが考えられる。本稿では、「生理の貧困」に直面している人々がどのような人物像であるのか、現状を分析する。第2節では先行研究を整理し、本稿で分析をする仮説を構築する。第3節では使用するデータと変数を概観し第4節で分析を行う。最後に第5節で分析結果から考察を行う。

#### 2. 先行研究と仮説の検討

##### 2-1. 先行研究

「生理の貧困」を抱える女性が生理用品の受け取りをためらう原因を検討した先行研究は少ない。そこで、「生理の貧困」問題が顕在化したことが新型コロナウイルスの感染爆発以降であることを考慮に入れ、コロナ禍での貧困のありかたについて先行研究を整理する。

山田(2021)はコロナウイルスによる経済的打撃を受けたのは飲食・旅館・ホテル・アパレル業界といった対面サービスを中心とした業界であること、これらの従業員の割合は他業界よりも女性が多い傾向があることから、コロナの影響は特に女性に強く打撃を与え、女性不況を招いたことを指摘している。また筒井(2021)もコロナの影響によって貧困が顕

在化した事実を述べている。これらの先行研究から考えて、「生理の貧困」がコロナ禍によって顕在化、より深刻になった貧困問題の一部と考えることができる。

これらの先行研究は「生理の貧困」という現象がなぜ起きたか、「生理の貧困」がどのような形で顕在化したかについて明らかにした。しかし、これらの研究では「生理の貧困」が実際にどのような女性を中心的に発生しているのか調査されていない。

## 2-2. 仮説の検討

先行研究から、「生理の貧困」はコロナ禍によって浮彫になった女性の貧困問題の一部である事が明らかとなっている。本稿ではさらに「生理の貧困」に直面し、実際に制度等を利用したいと考える女性像を明らかにすることで、「生理の貧困」問題を解決する糸口を探る。

調査では2つの観点に着目し分析を行う。1つ目は「生理の貧困」が密接に関わる貧困問題からの観点として、年収や年齢、家族形態との関わりを調査する。具体的な仮説として、「年収が低い程生理用品の受け取りを希望する」「年齢が低い人程生理用品の受け取りを希望する」の2つの仮説を検証する。

もう1つは生理用品を受け取るに当たっての心理的障害からの観点として、「精神的健康度が悪い人ほど、生理用品の受け取りを希望する」「人の目を気にしない人ほど、生理用品の受け取りを希望する」の2つの仮説を検証する。

これらの仮説は厚生労働省が令和4年2月に行った『「生理の貧困」が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査』に基づいている。調査では「300万円未満の世代、30歳未満の世代」に『「生理の貧困」の傾向が見られたこと、生理用品の購入・入手に苦勞したことが「ある」人の「心理的苦痛を感じている」とされる人が69.3%であったこと、無償提供を知っていても利用しなかった理由の上位に「申し出るのが恥ずかしかったから(8.5%)」「人の目が気になるから(7.8%)」が挙げられている。

## 3. 使用するデータと変数

### 3-1. 使用するデータ

使用するデータには、「コロナ禍における地域活動及び人間関係に関するアンケート」(以下本調査と表記)を使う。調査の概要を表1に示す。このデータは、滋賀県彦根市在住の男女に調査を限定しているが、生理用品の無償配布に対しその取り組みを利用するか尋ねた上で、その人物の家計や家族構成といった詳細なプロフィールについても尋ねており、本分析を行う上で適切なデータである。

表1. 調査の概要

調査名	コロナ禍における地域活動及び人間関係に関するアンケート
調査対象	滋賀県彦根市在住の男女
調査時期	2022年9月1日～9月21日
調査方法	Qualtricsを用いたインターネット調査
抽出方法	彦根市公式LineとQRコード付きチラシによる誘導
サンプルサイズ	1082

### 3-2. 使用する変数

使用する変数について、従属変数には問 4-5「生理用品を無償で配布する取り組みがあった場合の利用の有無」を使用する。この調査では「利用したい」「どちらかといえば利用したい」「どちらかといえば利用したくない」「利用したくない」の4点尺度と「わからない」を合わせた5項目が上記の質問に対する選択肢として用意されている。ここから「利用したい」「どちらかといえば利用したい」のどちらかを回答したグループを「利用希望者」、それ以外の回答をしたグループを「非利用希望者」として分析する。

独立変数について、年収については問 15「昨年度の世帯年収をお教えてください」を使用する。質問では100万単位で解答されているが、分析を容易にする観点から「200万未満」「200万以上～400万未満」というように200万単位に統合する。年齢については問 2「あなたの年齢を教えてください」という質問を用い、その回答から10代、20代、30代というように10歳刻みで分類する。人目を気にするかどうかは問 11-1「生活必需品を無料または定額で利用できるサービスに対する考え」から、選択肢4の「世間体や人の目が気になる」を用いる。精神的健康度については「現在、あなたはどの程度幸せですか」という質問に10点満点で尋ねた結果を用いる。

また、今回は生理用品の利用希望に絞った調査である為、アンケートの回答から男性、60歳以上の女性を外した。分析に用いるデータの記述統計量を以下に示す。

生理用品の受け取り希望を希望した割合は58.1%であり、非常に多くの女性が生理用品の受け取り希望をしていることが分かる。

年齢、年収に関しては概ね一般的なデータが得られた。精神的健康度、人目を気にするかどうかについてはデータに偏りがあり、特に人目を気にするかどうかでは、気にすると答えた人数が全体に対し23件しか得られなかった。

表2. 分析に用いる変数の記述統計量

変数	女性(n=413)
	%
従属変数	
生理用品の利用希望	
利用希望	58.1
非利用希望	41.9
独立変数	
年齢	
20代	7.5
30代	21.1
40代	35.8
50代	35.6
年収	
0～200万未満	11.5
200万～400万未満	20.4
400万～600万未満	14.8
600万～800万未満	13.1
800万以上	12.3
無回答・わからない	27.9
精神的健康度	
0-3	9.9
4-7	47.3
8-10	37.4
無回答	5.4
人目を気にするかどうか	
気にする	93.3
気にしない	5.7
無回答・わからない	0.9

#### 4. 分析

##### 4-1. 基礎的な分析

基礎的な分析として、それぞれの独立変数との関係についてクロス集計をしたものを図1～4に示す。

まず図1は年収と生理用品の受け取り希望についてのクロス集計である。この図によれば年収によって生理用品の受け取り希望はほぼ変わらず、年収と生理用品の受け取り希望の間には関連が見られなかった ( $\chi^2=3.60$ ,  $df=4$ ,  $p=0.462$ )。

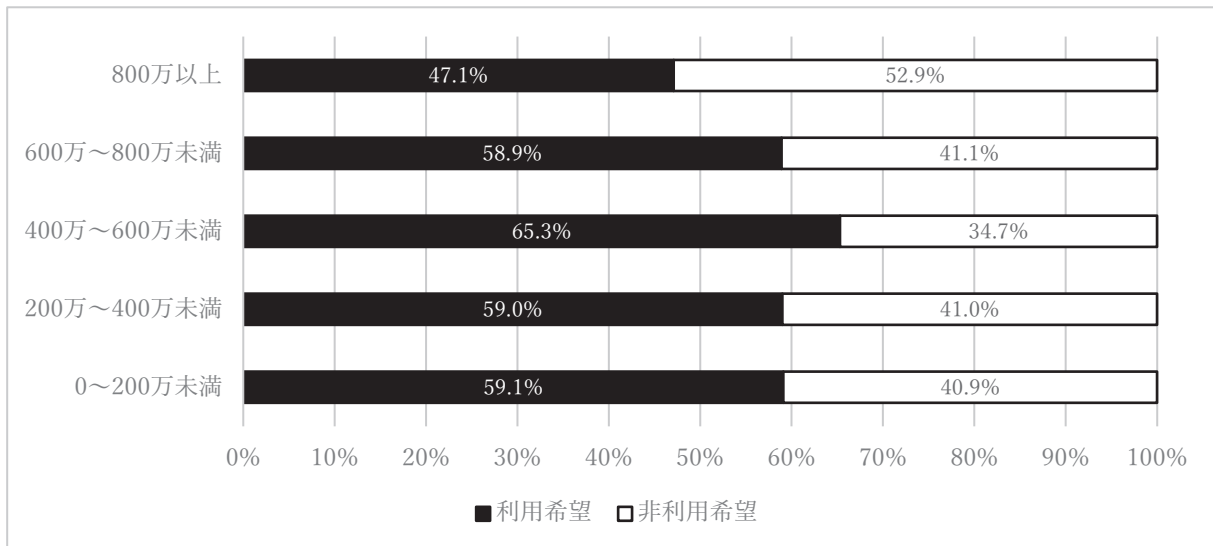


図1. 年収と生理用品の受け取り希望の関係

次に図2は年齢と生理用品の受け取り希望についてのクロス集計である。この図によれば年齢が低いほど生理用品の受け取りを希望している様子が見られ、特に20代は83%と非常に高い。カイ二乗検定の値からも、年齢と生理用品の関係には関連性があると考えられる ( $\chi^2=19.6$ ,  $df=3$ ,  $p=0.000$ )。

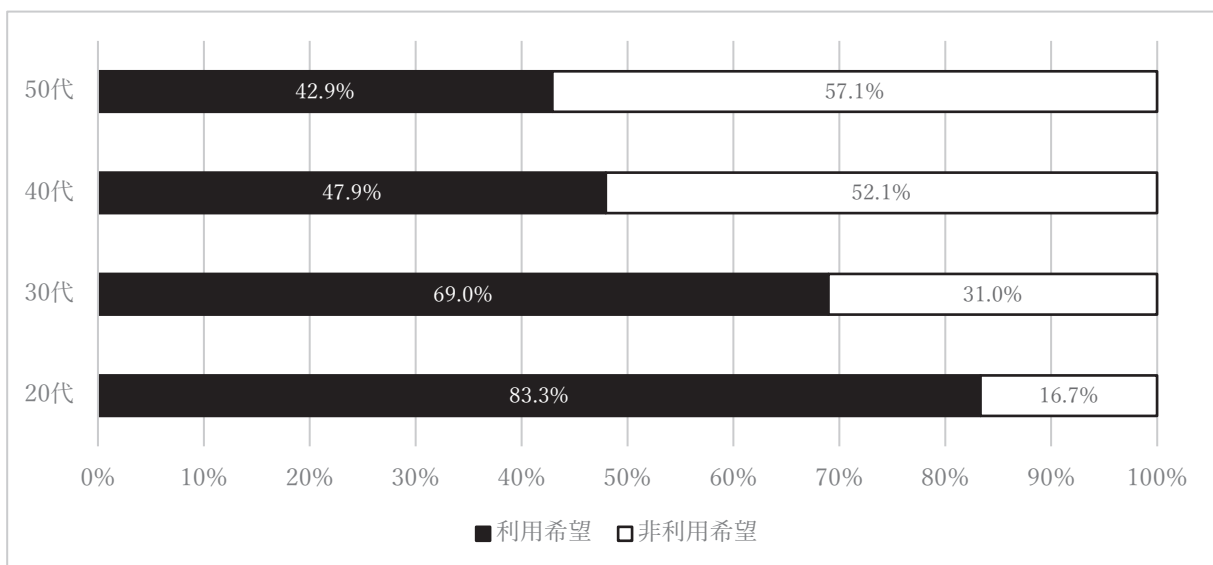


図2. 年齢と生理用品の受け取り希望の関係

次に図3は人目を気にするかと生理用品の受け取り希望についてのクロス集計である。この図によれば人目を気にするかは生理用品の受け取りの希望にあまり関係しておらず、関連性は低いと考えられる ( $\chi^2=0.115$ ,  $df=1$ ,  $p=0.734$ )。

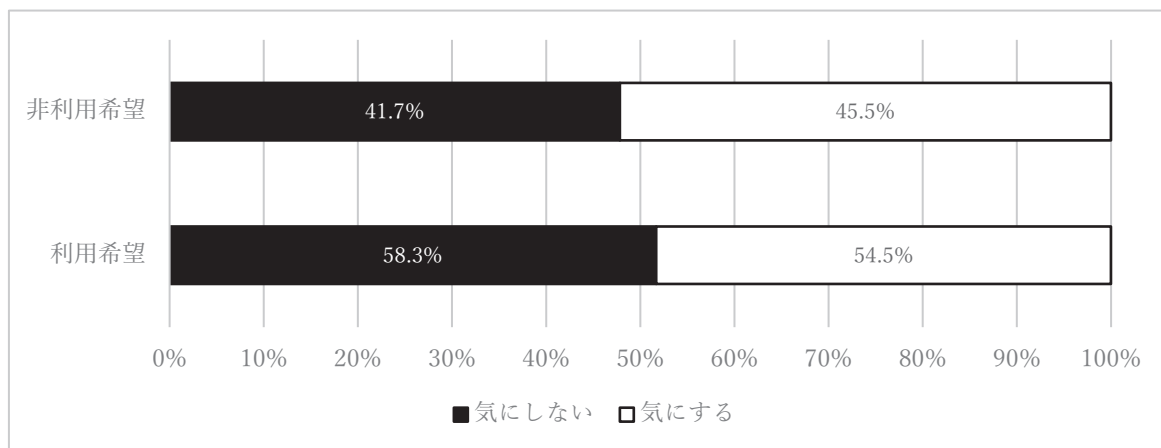


図3. 人目を気にするかどうかと生理用品の受け取り希望の関係

最後に図4は精神的な健康度と生理用品の受け取り希望についてのクロス集計である。この図によれば精神的な健康度と生理用品の受け取りの希望にあまり関係しておらず、関連性は低いと考えられる ( $\chi^2=1.253$ ,  $df=2$ ,  $p=0.534$ )。

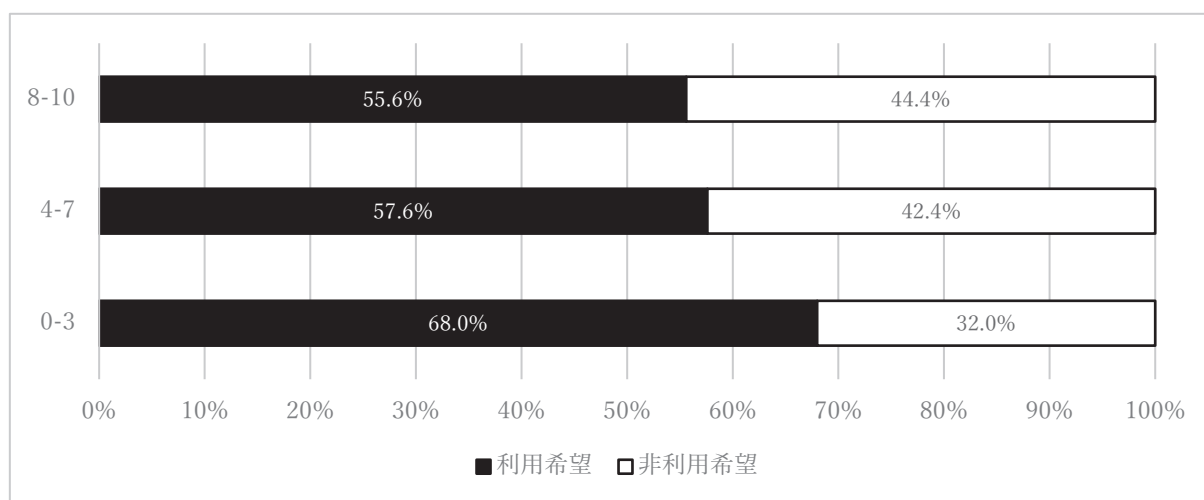


図4. 精神的健康度と受け取り希望の関係

単純推計の結果からは、図2以外の結果から統計的な関連性を見出すことはできなかった。そのため、図1, 2, 4について追加で分析を行った。

「利用希望」を選択した回答者には「生理用品の受け取りを希望する」と「どちらかと言えば生理用品の受け取りを希望する」の2つの選択肢が含まれる。これらの2つの選択肢を「利用希望の強さ」として2段階で分析を行う。結果は以下ようになった。なお結果から「人目を気にするかどうか」「精神的健康度」の2つは関連性が見られなかった為、割愛する。

図5は年収と利用希望の強さのクロス集計である。カイ二乗検定の値 ( $\chi^2=7.664$ ,  $df=4$ ,  $p=0.10$ ) から、有意水準 10%であれば年収と利用希望の強さに関連性が見られることが分かった。グラフからは 400 万~600 万未満を中心に、それよりも年収が大きくなる、また

は小さくなると希望の度合いが大きくなる傾向にある。

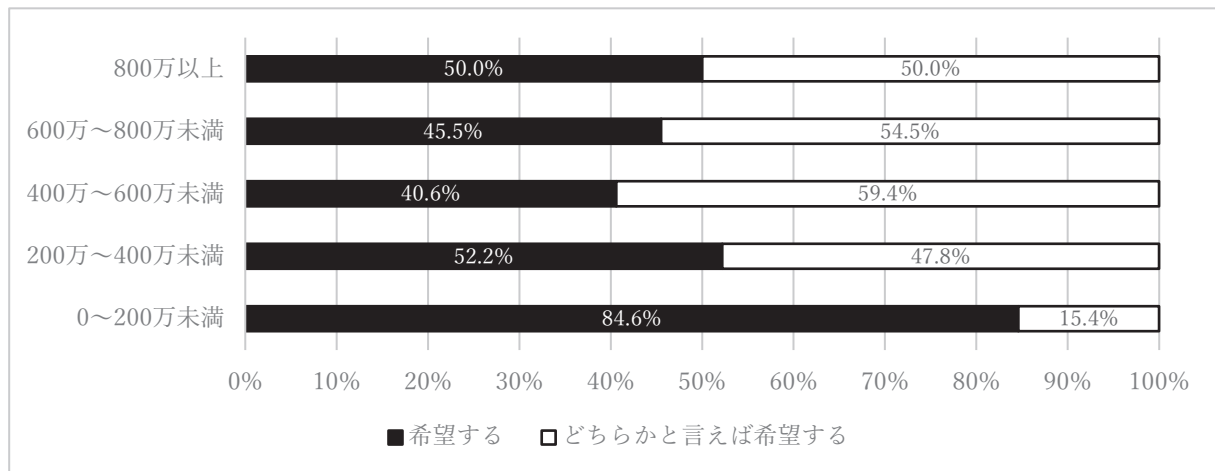


図5. 年収と希望の強さの関係

以上の結果から、年齢は利用希望の有無に関連し、年収は利用希望の強さに関連することが分かった。しかしこれらの変数は互いに交絡している可能性がある。よって、次節ではこれらの独立変数を多変量解析によって互いに統制した上でも、生理用品の受け取り希望、その強さと関連があるか調べる。

#### 4-2. 多変量解析

本節では、それぞれの独立変数が他の独立変数を統制しても影響があるか、多変量解析によって検討する。表3は生理用品の受け取り希望について、そのロジスティック回帰の結果である。この表によると、年齢にのみ0.1%水準で関連がある。また、世帯年収は生理用品の受け取り希望と関連が無いことが分かる。精神的健康、人目を気にするかどうかについては関連を認められなかった。

表3. 生理用品の受け取り希望との二項ロジスティック回帰分析の結果

変数	B	Exp(B)	p値
切片	4.337	76.463	0.000
世帯年収	-0.001	0.999	0.299
年齢	-0.081	0.922	0.000
精神的健康	-0.171	0.843	0.481
人の目を気にする	-0.298	0.742	0.590
n		0.062	
Nagalkerke R2		0.109	
Cox and Snell R2		0.081	

表4は生理用品の受け取り希望の強さについて、そのロジスティック回帰の結果である。図5から年収と生理用品の受け取り希望の強さの関連は単純な相関では無いことが分かっている為、年収を因子として二項ロジスティック回帰分析を行う。この表によると、世帯年収200万円未満については有意水準10%以下で影響していることが分かった。

表4. 生理用品の受け取り希望の強さとの二項ロジスティック回帰分析の結果

変数	B	Exp(B)	p値
切片	-0.216		0.857
年齢	-0.006	0.994	0.823
人の目を気にするか	1.222	3.396	0.151
年収			
200万円未満	2.855	17.371	0.021
200～400万円未満	0.296	1.344	0.638
400～600万円未満	-0.447	0.639	0.437
600～800万円未満	-0.036	0.965	0.950
800万円～(ref.)			
健康度			
0～3	-0.960	0.383	0.227
4～7	-0.063	0.939	0.881
8～10(ref.)			
n		280	
Nagalkerke R2		0.167	
Cox and Snell R2		0.097	

## 5. 考察

最初に仮説の検討を行う。本稿で立てた4つの仮説の内、仮説通りの結果が得られたのは1つであり、「年齢が低い程生理用品の受け取りを希望する」である。それ以外の仮説については、本稿で利用した調査では答えが得られなかった。ただし、「年収が低い程生理用品の受け取りを希望する」については、「年収が低い程生理用品の受け取りを強く希望する」という事実が示されている。本稿では精神的健康、人目を気にするかどうかのように生理用品の受け取り希望、またその強さに影響を与えるか結論付ける事はできなかった。

一般に年齢が若い程出費も多く、また収入が少ない事から、年齢によって生理用品の受け取り希望に繋がる割合が増加すると考えられる。

ここから、残された課題について指摘する。より詳しい「生理の貧困」に直面する女性像を明確にするために、家族構成、世帯人数を視野に入れた調査を行う必要がある。これ



らはライフスタイルの違いによる生理用品の受け取り希望への影響を加味した調査となる可能性が高く、より詳しい調査を行う事ができるだろう。また、今回のデータは彦根市のデータを使用した為、今回の結果が彦根市に限定的な結果である可能性がある。全国サンプルを使用した分析を行うことによって、日本社会全体について議論することができるだろう。

## 6. むすび

本稿では、「生理の貧困」を抱える女性像を明確にするために行った調査の結果からは、女性の年齢と「生理の貧困」には統計的に有意な関係が見られることが分かった。また、収入や本人の気質、精神的な健康と統計的に有意とは言えないものの、「生理の貧困」に影響を与えている可能性が示された。今後「生理の貧困」問題を解決するに当たっては、各々のライフスタイルや生活環境を考慮した調査を行うことで、より詳しく人物像を捉えていくことができるだろう。また今回の調査は滋賀県彦根市に限定されているため、これらの調査を日本社会全体に当てはめる為、より規模の広い調査を行っていく必要があるだろう。

今後これら調査を行っていくことで、より詳しく「生理の貧困」を捉えることができると考えられる。

## 参考文献

山田 知子, 2021, 「コロナ禍」の人間, 社会, そして福祉 : 文明と環境をめぐって > 新型コロナウイルス の感染拡大は女性の生活をどう変えたのか : さまよえる中高年女性たち

筒井のり子, 2021, 「コロナ禍における地域福祉の課題」『龍谷大学社会学部紀要』第 59 号 p. 16-28

木村美也子, 井出一茂, 尾島俊之, 2022 年 4 月 15 日, 幼い子を持つ母親のコロナ禍の心理的苦痛とその関連要因 : 子の育てにくさ、発達不安、ソーシャルサポートおよび受援力に焦点をあて『日本公衛誌』第 69 巻第 4 号 p. 273-283